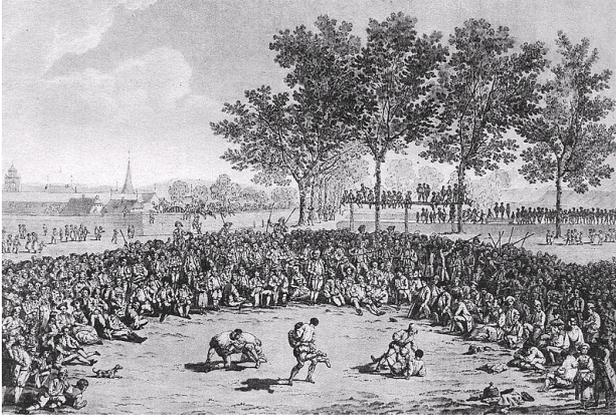




☆国際交流員による世界に出会える文化イベントその12:スイスの伝統スポーツと音楽!のお知らせ☆



スイスは長い歴史があり、様々な面白い伝統スポーツと音楽が発展しました。「シュウィング」や「シュタインシュトッセン」というスポーツを知っていますか。「アルプホルン」という楽器はどんな音がするのでしょうか。一緒にスイス文化に触れてみませんか？

日付：平成25年10月19日 土曜日

時間：14時30分～15時30分

場所：あそぶっく コミュニティールーム

進行：国際交流員 ロミー ベール (スイス出身)

※このイベントはどなたでも自由に参加できるイベントです。みなさまのご参加お待ちしております！

☆ハロウィン☆

10月の終わりには、様々な国がハロウィンを祝います。せっかくの機会ですので、ハロウィンの歴史と風習を紹介したいと思います。^-^

ハロウィンは、毎年10月31日に様々な国で行事が実施されています。これら行事は、収穫祭や死者の祭、特にサウィン祭 (Samhain) に由来しています。サウィン祭は、アイルランドの昔の民族の季節祭の一つであり、冬の始まりと収穫時期の終わりのしるしとして行われます。サウィン祭は、アイルランド、スコットランドとマン島で祝われていましたが、同時期によく似た祭として、ケルトの地域 (イギリス、北フランスなど) でも行われていました。サウィン祭の時期は、生きている人の世界と死者の世界との境界があいまいになり、死者の霊が戻ってくるとされていて、彼らのために宴会が行われました。しかし、悪霊や妖精も一緒に生きている人の世界に来ることもあり、その悪霊から身を守るための方法が、現代のハロウィンの風習となっています。

例えば、悪霊から自分たちが人間だと見破られないように変装しました。また、いくつかの地域では、住民が変装したままで家々を回り、宴会のための食料やサウィン祭の焚き火の燃料を集めました。現在では、様々な国で子供がハロウィンの晩に、コスチュームを着たままで家々に回り、お菓子をもらう習慣があります。それはトリック・オア・トリートといわれ、「お菓子をくれないといたずらをするぞ」という意味です。この習慣は、そのような風習に由来しているかもしれません。

ハロウィーンは特にアメリカ、カナダ、アイルランドとイギリスで祝われています。さらに、アメリカの広い文化の影響により、他の国々でも行われているようです。スイスでは、ハロウィーンはまだ習慣となっていないですが、10月31日にハロウィーンのテーマを持ったパーティが多いです。私はいつも、ハロウィーンに友達と会って、一緒に怖い映画を見ます。^-^

また、ニセコ町でもハロウィーンを祝うイベントが行われます！10月6日（日）にニセコアンヌプリ国際スキー場ヌックで、トリック・オア・トリート、コスチュームコンテスト、カボチャの重さあてクイズなど、楽しいハロウィーンの催し物がいっぱいあります！

お問い合わせ：ニセコフェスティバル実行委員会事務局（ニセコリゾート観光協会）

0136-44-2420, www.niseko-f.com

♪「けちなジャック」の伝説と彫ったカボチャの由来

昔、いたずらすることが好きで大酒飲みである「けちなジャック」という男がいました。悪魔がジャックの悪行を耳にし、魂を奪うことにしました。ジャックは悪魔から逃げ出せないことがわかると、最後のお願いとして1杯の酒を頼みました。悪魔はその願いを叶え、ジャックがバーテンダーにお金を払えるように、自分をコインに変えてしまいました。しかし、ジャックがそのコインを十字架が入ったポケットに入れ、悪魔は十字架のため元の姿に戻れなくなりました。ジャックは、悪魔に「10年間自由にしないと、コインのままで悪魔に戻れないようにしてやるぞ！」と言いました。悪魔はジャックを自由にするしかありませんでした。

しかし、10年後、けちなジャックは、もう一度悪魔に出会いました。その時、ジャックはお腹がすいたので、悪魔に「木になっているりんごを一個取ってくれないか。」と言いました。悪魔は、仕方がないと思いましたが、木に登りました。ジャックは、すぐに木の幹に十字架を彫って、また悪魔を捕えました。ジャックは悪魔に、もう二度と自分にかまわないで、死んだ後も魂を奪わず地獄に連れて行かないように要求し、悪魔はそれに賛成するしかありませんでした。

けちなジャックは、数年後に死んで天国に行こうとしました。しかし、悪い行いばかりして生きていたため、天国に行けませんでした。ジャックは、他に行くところがなくて、地獄に行こうとしましたが、悪魔は約束を守って地獄に入らせませんでした。悪魔がジャックに帰るようにいうと、ジャックは帰り道が長くて暗いため、光が欲しいと頼みました。悪魔が地獄の火からの燃えている石炭を渡し、けちなジャックはそれを空のカボチャに入れてランタンにしました。そのときから、けちなジャックはカボチャのランタンだけで、暗い夜を放浪する運命になりました。それから、ジャックとカボチャのランタン両方を、みんなが「ジャックランタン」と呼ぶようになりました。

この伝説によって、人々がカボチャに怖い顔を彫って、色々な形のランタンを作り始めました。作ったランタンは、けちなジャックや悪霊が来ないように、ハロウィーンの時期には玄関や窓の前においておく風習が始まりました。



けちなジャック

(ニセコ高校外国語指導助手

オースティン ワンさん作)

問い合わせ：ニセコ町国際交流推進協議会（ニセコ町役場企画環境課）

担当：ロミー パール、前川 沙紀 TEL:0136(44)2121 E-mail: kikaku@town.niseko.lg.jp